

## 第47回デメンシアカンファレンスを開催

2019年2月12日

2月12日（火）に富山大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）「第47回デメンシアカンファレンス」を開催しました。

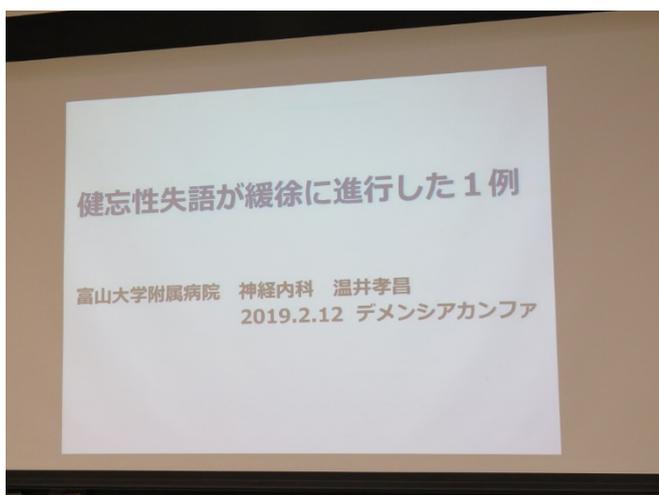
今回のカンファレンスには、金沢大学、富山大学、金沢医科大学、国立病院機構医王病院、国立病院機構北陸病院、谷野呉山病院、魚津緑ヶ丘病院、福井県立すこやかシルバー病院の8施設が参加しました。「健忘失語が緩徐に進行した1例」のタイトルで、富山大学からの症例報告が進められ、各大学、病院間で活発に質疑応答や意見交換が行われました。



症例発表の様子



各会場の様子



症例のスライド



富山大会場の様子

## 第47回デメンシアカンファレンス 報告要旨

### 『健忘失語が緩徐に進行した1例』

発表者：温井孝昌（富山大学附属病院 脳神経内科）

司会：道具伸浩（富山大学附属病院 脳神経内科）

【要旨】X-2年から会話の中で物の名前が出てこないようになった。言葉が出にくい以外には自覚症状はなく日常生活にも支障はなかったため、医療機関を受診することはなかった。その後も症状は進行し、X年頃から発語が明らかに異常となったため近医を受診し、失語症と診断され当院を紹介受診した。喚語困難、健忘失語があり、HDS-R 9点、FAB 9点と低下していた。頭部MRIでは左優位に前頭葉、側頭葉、頭頂葉の萎縮を認め、脳血流SPECTでは同部位の血流低下を認めた。髄液検査で総タウの上昇、アミロイドβ42が低下しており、非定型アルツハイマー型認知症（Logopenic variant Alzheimer型認知症）と診断した。本例は進行性の失語、左側頭葉の萎縮を認めたことから当初、前頭側頭葉変性症を疑っていたが、髄液バイオマーカーの結果からアルツハイマー病と診断した。髄液タウ蛋白、アミロイドβ蛋白の測定は認知症の診断に有用である。

#### 【質問・意見】

質問：logopenic型の進行性失語では語性錯誤が目立つことが多いので、本例は健忘性失語を呈したアルツハイマー病でよいのではないか。

回答：原発性進行性失語のサブタイプ診断基準では音韻性錯誤は支持項目であり、本例はlogopenic型失語の基準を満たすと考えるが、临床上は健忘性失語で発症したアルツハイマー型認知症として加療を行うので良いと考える。



文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム  
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

# 第47回デメンシアカンファレンス

平成31年2月12日(火)18:30~20:00

## 「健忘失語が緩徐に進行した1例」

**担 当：**富山大学  
**対 象：**認プロ参加施設及びその他の施設の医療関係者  
(医療系大学の学生含む)

**会場：**認プロ参加施設テレビ会議システム設置場所  
(○…参加者受け入れ可)

- ・金沢大学 (医薬保健学域医学類G棟2階第3講義室)
- ・富山大学 (附属病院2階カンファレンスルーム2)
  - ・福井大学 (附属病院2階キャンサーボード室)
- ・金沢医科大学 (基礎研究棟3階大学院セミナー室)
- ・国立病院機構医王病院 (地域医療研修室)
  - ・石川県立高松病院 (医局会議室)
- ・国立病院機構北陸病院 (特殊診療棟2階小会議室)
  - ・谷野呉山病院 (共通棟1階ミーティング室)
- ・魚津緑ヶ丘病院 (5階会議室)
- ・福井県立すこやかシルバー病院 (管理棟2階応接室)

※申し込み不要

※出席される方は、受付で出席簿に氏名等をご記入下さい。

※教育コース履修者の方は、本人保管用の受講票を受理の上、検印を受けて下さい。

お問い合わせ先 北陸認プロ運営事務局  
〒920-8640 金沢市宝町13番1号  
TEL:076-265-2149 FAX:076-234-4208  
E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp  
URL:http://ninpro.jp/